キーワードで読み解く

回勅 兄弟の皆さん

連載第3回〈全7回〉

酒井俊弘補佐司教

第3章は「開かれた世界を描き、生み出す」というタイトル。私たちは自らに問いかけなければなりません。「私は開かれている世界だろうか」と。

『回勅 兄弟の皆さん』(教皇フランシスコ、カトリック中央協議会、2021年、税込1760円)

第3章 「開かれた世界を描き、生み出す」

いのちがあるのは、きずな、交わり、兄弟愛のあるところ

87 いのちがあるのは、きずな、交わり、兄弟愛のあるところです。真のつながりと、実直な結びつきの上にあるのなら、いのちは死よりも強いのです。それとは逆に、自分は自分にのみ帰属し、孤島のように生きているのだとうぬぼれるなら、そこにいのちはありません。

きずな、交わり、兄弟愛があるところがこの世で幸せな場所であり、天国の特徴でもあります。反対に、きずな、交わり、兄弟愛がないところはこの世の地獄であり、つまるところ地獄とはきずなも交わりも兄弟愛もない孤独な場所なのです。

人種差別というウイルス・個人主義というウイルス

97 この社会で苦しみ、見捨てられ、ないがしろにされる兄弟姉妹はだれしも、同じ国に生まれたとしても、実存的な意味での異邦人です。(……)人種差別は簡単に変異するウイルスであり、消滅せずに隠れて、つねに待ち伏せているのです。

105 個人主義は、駆逐するのが非常に難しいウイルスです。だますのです。個々の野心と安心を積み上げれば共通善を築けるといわんばかりに、すべては自分の野心に任せるところから始まるのだと、わたしたちに信じ込ませるのです。

この3年間、ウイルスが目に見えない強力な敵であることを私たちは身に染みて知りましたが、心に住み着いているウイルスこそ恐れなければなりません。「あの人は○○人だから」「あの人はああいう人だから」と簡単に差別してしまうウイルス、個人を最優先するという個人主義のウイルスは、私たちの心の中に隠れており、何かのきっかけで発症します。そうならないためには、兄弟愛という特効薬が繰り返し必要です。

存分に水があっても、それを大事にする

117 もし自分には存分に水があっても人類をおもんぱかってそれを大事にするというならば、それは、自分自身を、また自分が属する集団を、超え出て行ける倫理的レベルに到達しているからなのです。これは実に人間らしいことです。

災害にあって断水が続くと、水がどれほど生活に欠かせないかを思い知りますが、喉元過ぎれば熱さを忘れる……です。存分に水がある時でも水に事欠く兄弟のことを考えて大事にすることが、「地球という、ともに暮らす家を大切にする」(同)ことなのです。

ラジオ

信仰の時間

被造物の声に耳を傾けよう

〈9月11日放送分〉

和越敏(かずこしびん)神父
(コンベンツアル聖フランシスコ修道会、仁川教会)

今日も「被造物の季節(9月1日～10月4日)」を多くの兄弟姉妹と一緒に過ごしてまいりましょう。先週の放送で申し上げたように、被造物を大切にするために、私たち一人ひとりは、個人、団体、企業、国家などに限定された自己中心的な考え、生き方を捨て、あらゆるものと共に生きようという意識を多くの兄弟姉妹とともに新たにしてゆきましょう。

今年2022年の平和旬間(8月6日～15日)ですが、大阪教区全体のテーマは「A Road to Peace : Listening to One Another(互いに耳を傾けて平和への道を)」でした。平和を築き、平和のうちに生きるために、互いに耳を傾け合うことが強調されました。被造物を大切にし、すべてのいのちを守るためには被造物からの声に耳を傾けることも不可欠です。

教皇フランシスコは、これまでアシジの聖フランシスコの精神に従って、被造物とともに生き、ともに大切にしていく姿勢を示し、今年の「被造物の季節」のために、「被造物の声に耳を傾けよう」というテーマを選びました。教皇フランシスコは「被造物の声に耳を傾けるならば、私たちの創造主である神をたたえる甘美な歌を聞く一方で、人間のひどい仕打ちを嘆く苦い叫びをも聞くだろう」と述べています。

私たちは、神を賛美して歌う無数の被造物からなる「宇宙の壮大な合唱」を大いに楽しみましょう。アシジの聖フランシスコに声を合わせて歌いましょう。「賛美されますように、私の主よ、あなたのお造りになったあらゆるものによって」(兄弟なる太陽の賛歌)。

この甘美な歌声には、苦い叫びが重なっています。被造物が上げる苦い叫びは母なる大地の叫びであり、生態系から消えゆく多くの生物の叫び、また、気候危機の影響も強く受けている貧しい人びとの叫び、そして地球のエコ・システムの崩壊を食い止めるために可能な限りの努力を望む若者たちの叫びでもあります。

私たちは「話せず、語れず、声が届かない」被造物や貧しい人びとの叫びに耳を傾けるように招かれています。では、私たち一人ひとりが住む地域では、どんな声が聞こえますか。他人の圧力、別の勢力によって聞こえないよう押し潰されてしまっている声はないでしょうか。

これらの叫びを聞き知る私たちは、どうすればいいでしょうか。何よりもまず、深く反省し、被造物にダメージを与える生活様式や習慣を変えなくてはなりません。もちろん、個人的な回心だけでなく、共同体的な回心が必要です。この期間、特に「私たち自身の中での調和、他者との調和、自然やいのちある他の被造物たちとの調和、そして神との調和といったさまざまなレベルで、エコロジカルな平衡を回復」していくことができるよう、祈り、身近で実行できる小さな取り組みをしなければなりません。

キリスト者の私たちは社会問題としての環境への取り組みにとどまらず、個人として、共同体として、霊的にも、社会的にも、神と、自然と、他者と調和して生きていくための取り組みを進めるべきだと思います。

聖パウロがローマの信徒への手紙12・15で「喜ぶ人々と共に喜び、泣く人々と共に泣きなさい」と教えてくださったように、私たちは心を新たにして、神を賛美しながら、感謝しながら、現実的に被造物の苦い叫びを聞いて、共に泣きましょう。そうしなければ、私たちと未来の世代はこれからも被造物のいのちと希望の甘美な歌を耳にして共に喜ぶことが難しくなってしまうでしょう。

最後に、回心の恵みを願い求めながら、詩編を使って一緒に祈りましょう。「主よ、あなたの息を送ってください。地の面を新たにしてください」(詩編104・30参照)。

毎週日曜日5：50～6：00AM放送
11月担当：中島貴幸(たかゆき)神父
ABCラジオ(朝日放送)AM1008/FM93.3
スマホアプリのradiko(ラジコ)でも聴けます。